

令和5年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	授業づくり 部 会		
2 研究所員 事務所員 ◆: 代表者	研究所員 ◆牧島 和也 (吹上小) ・天野 太輔 (静和小)	・神戸 幸恵 (吹上中) ・湯本 さや (藤岡中)	事務所員 ・大橋 信広 ・石川 慎太郎



3 研究テーマ

子どもたちが主体的に学びたいと思う授業づくり
～学び合える集団を目指して～

4 研究の取組

(1) 研究内容

児童生徒が主体的に学びたいと感じられる授業づくりを研究する。そのために、授業で児童生徒が学び合いのよさ、必要性を感じられるような工夫を取り入れた授業実践を行う。

○実践に向けたキーワード

- ・1人では解決できない課題の設定
- ・学習形態の工夫
- ・学び合う場面の設定 (単元計画、子どもが学び合いたいと思うタイミング)
- ・小学校、中学校及び学年など発達段階によって変わるルールや方法

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月11日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月6日	研究テーマ・内容の協議
6月27日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月21日	研究授業・協議 (静和小 天野先生 4年算数)
9月19日	研究テーマ・内容の協議	2月8日	協議・まとめ
10月20日	研究授業・協議 (吹上中 神戸先生 2年数学)	2月16日	2年次経過報告提出

5 研究の成果と課題

<成果>

- ・必然性のある課題を設定することによって、自然と児童生徒が主体的に学ぶ雰囲気生まれることが分かった。
- ・主体的な学び合いの根底には、教師と児童生徒との信頼関係 (学級経営) が深く関わっていることが分かった。
- ・昨年度と比較して、学び合いの必然性についての考えを深めることができた。
- ・学び合いの目的に応じて、学習形態 (ペアやグループ) の工夫が必要であることが分かった。
- ・よりよい学び合いとは、ただの伝え合いではないことを実感することができた。

<課題>

- ・効果的な課題の提示の仕方の更なる工夫。
- ・学び合いの前の、個人で学習する時間の確保。
- ・1時間で終わらない課題の、次時へのつなぎ方。 →さらに広げると、単元計画にもつながる。
- ・学び合いを行う上で、課題の設定、児童生徒の実態、学習形態など、一様に言えないところが多い。
→共通性を見出すことでさらに汎用性のあるものになるかもしれない。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- 教科を越えて学びたいと思わせる授業の組み立て (共通性) をさらに深めたい。
(例) 日常との結びつき→授業へのワクワク感につながる (児童の実態を踏まえて)
- 興味や意欲が異なる児童生徒への個別最適なアプローチの仕方を研究したい。
- 他の研究部会と連携し、それぞれの取組を取り入れることで、効果を検証したい。